

幼児同士の言葉による伝え合いを誘発する保育活動

—素話から描画活動に繋ぐ保育活動における幼児の発話に注目して—

The Childcare Activities that Induce Dialogue among Nursery School Children

—Observation of Infants' Speech in Nursery Activities by the Link from Talking to Drawing—

高橋 一夫*・須増 啓之**・白波瀬 達也***

要旨

平成29年度告示の『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のひとつには、「言葉による伝え合いを楽しむことができる幼児の姿」が明示されている。また、同じく平成29年度告示の『小学校学習指導要領』の国語においては、「日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う」ことが目標とされている。以上から、乳幼児期から就学期にかけて子ども達の言語表現の力を、切れ目なく育成することが重視されていると理解できる。

しかし、就学期以降における児童の言語表現活動までを意識した実践という点については、保育活動の中で十分に意識されているとは言い難い。そこで本研究では、就学期以降の子ども達の言語表現活動に繋がる保育活動を提案し、その効果について実証することを目的とした。特に本論では、提案した保育活動における子ども達の会話がどのように展開するのかに注目し、会話内容について分析をおこなった。

キーワード：幼児 言葉 伝え合い 言語表現活動 造形表現活動

はじめに

高度情報化が進展する現代社会においては、例えば、専門的な課題を解決するためのAI(artificial intelligence)の活用や、飛躍的な生産性の向上を目指すためのビッグデータの活用など、最新の情報技術を駆使した問題解決の手法に大きな期待がかかっている。また、普段の生活においては消費税の増税に対する負担を、キャッシュレス決済を利用した場合は、一部が還元されるといった仕組みが構築されるなど、情報技術を活用した生活の利便性の向上が図られている。

ただ、一方で情報技術によっても解決が難しい課題も存在する。例えば、国際情勢における諸課題は、各国の政治理念や文化的な価値観の相違などが背景にあるため、何か革新的な技術

* 神戸親和女子大学 発達教育学部 児童教育学科 教授

** 神戸親和女子大学 発達教育学部 児童教育学科 講師

*** 常磐会短期大学 幼児教育科 教授

を用いれば解決ができるといった質の問題ではない。

また、我々の普段の生活においても、耳を疑うような事件や事故の報道が続いており、それらの事柄をすべて解決できるような技術といったものは見当たらない。加えて、同じ地域に住む人々であっても、意見の相違が大きくなりつつあり、抱えている課題の解決を困難にしている状況が世界中で散見される。メディアなどでは人々の間で生活上の大きな格差が認知されるようになり、社会的な分断が進行していると指摘されている。

課題解決において特別な手立てがない以上、我々に残されているのは相互に理解を深め、譲歩を重ねることしか残されていないといえる。そのためには、地道な話し合いが必要になる。そして、対話から生み出される協働こそが、諸課題を解決するための鍵となるように思われる。そのためにも、対話に向かうことができる資質を備えた人材の養成が急務となる。

対話に向かうことができる人材の育成という視点に立ち、学校教育を振り返った時、その教育目標にも明確に示されていることが理解できる。例えば、平成29年度告示の『小学校学習指導要領』の国語科においては、「第2 各学年の目標及び内容」〔第1学年及び第2学年〕の目標に「(2)順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。」とあり、児童の伝え合う力を高めることが、すでに小学校低学年の国語科の目標として設定されている。

加えて、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」では、「(1)単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方を理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。」とあり、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ることが求められている。

この「主体的・対話的で深い学び」について、藤森¹は、子ども達が言葉の発達とともに獲得する「知的好奇心」・「粘り強さ(Resilience)」・「互恵性(Reciprocity)」の3つの資質をもって、自ら課題に挑戦する学びであるとし、国語科で育てたい言葉の力は、子ども達が躓きや挫折を通して獲得する深く省察する力であると指摘している。

また、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、『小学校学習指導要領解説 国語編』の「1 国語科の目標」では、「多様な場面や状況における学習の積み重ねや、継続的な読書などが必要であり、そのためには、国語科の学習を他教科等の学習や学校の教育活動全体と関連させていく」工夫の必要性も示している。

以上、現代を生きる人間として必要不可欠な資質を育てるために、小学校における国語科の在り方を確認したが、それらがいきなり就学期の児童から始まることで成立するとは考えられない。子ども達の乳幼児期からの育ちのなかで獲得されるものがあってこそ豊かな就学期の学びが実現できるといえる。そのような就学期以降の子ども達の育ちを支えられる保育活動とはどのようなものか。言葉の側面に注目した保育活動について考察を進めたい。

子ども達の言葉による伝え合いが誘発される保育活動

子ども達が言葉を使って会話をする機会は、保育現場において様々な場面でみることができ、子ども達は園庭や保育室での活動のなかで、子ども同士や保育者との関わりを通し様々な内容の会話をしている。そして、年長児に近づくにつれ、会話のなかに自身の意見や主張が明確に示されるだけでなく、相手の気持ちや意見を酌んだ発話が聞かれるようになる。

このような言葉による意思疎通の経験は、就学期以降の「主体的・対話的で深い学び」の実現に繋がる力を育むと考えられる。つまり、子ども達が言葉（音声言語）を使って意思疎通する機会が増えるような仕組みを有した保育活動を実践することができれば、子ども達は活動を通して、自ずと言言葉に関わる力を身につけることになる。

そこで、我々は子ども達の言葉による伝え合いが誘発されるような保育活動を提案し、その効果測定をおこなうことを考えた。これまでの我々の研究から、言語表現活動と造形表現活動を繋いだ保育活動が、子ども達の集中力を高めることがわかっている²。具体的な内容としては、絵本の読み聞かせや素話によって聴いた内容を、子ども達が描画や粘土造形によって表現するという保育活動である。特に、その保育活動における描画や粘土造形などの造形表現活動において、子ども達同士の会話が頻繁に交わされる。物語の内容についての理解から、生活の中で興味のあることなど様々な内容が話され、その過程で造形表現が発展する。

そこで、我々が提案する言語表現活動と造形表現活動を繋いだ保育活動が、幼児同士の言葉による伝え合いを誘発できる活動だと捉えた。そして、その精緻化を進め、現場に還元することで乳幼児期から就学期に繋ぐ言葉の側面で、子どもの育ちを支えることができるのではないかと考えた。本研究では、提案した保育活動の言葉の側面における効果について実証するために、まず、実際に子ども達の会話がどのような流れで進んでいくのかについて注目し、分析することを目的とした。

本研究における実験の概要、および発話の分析

今回は、言語表現活動に素話を設定し、造形表現活動に描画を設定した。素話を設定した理由は、絵本の読み聞かせと異なり、子ども達は絵本の挿絵を見ることができないため、物語の内容を子ども達自身が想像しなければならない。その想像の過程で、わからないことや疑問に感じたことについて、幼児同士で言葉による伝え合いが発展すると想定されたからである。

また、描画を設定した理由は、描画は粘土造形と異なり一度表現したものを取り消すことができない表現活動である。そのため表現する際の子ども達の慎重度が増し、表現についても思案することが多くなる。その思案が、子ども達同士の会話に発展しやすいと考えたためである。実験の概要は以下のとおりである。

日時：2019年2月26日（火）

場所：大阪府下私立認定こども園

対象：年長児26名（男児12名、女児14名）

内容：素話『ちからたろう』³の後に、パスを用いた描画活動をおこなう。

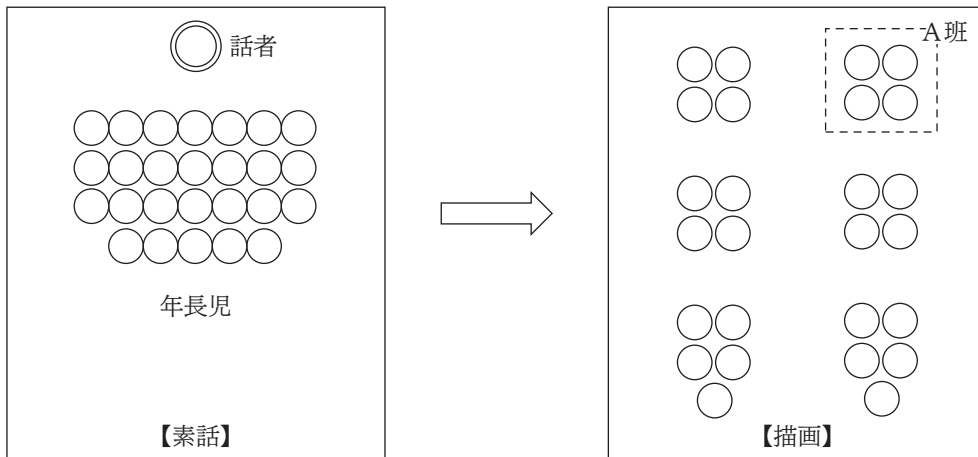


図1. 言語表現活動と造形表現活動における子ども達の様子

時間：素話（11分50秒）、描画（24分45秒）

素話に『ちからたろう』を採用した理由は、一般に子ども達が好む冒険譚であり、物語が大きく展開するため、様々な場面が想像しやすいと考えたからである。また、描画にパスを用いたのは、普段の保育活動でも使用されることが多く、子ども達が描画に関して抵抗を感じる事が少ないからである。

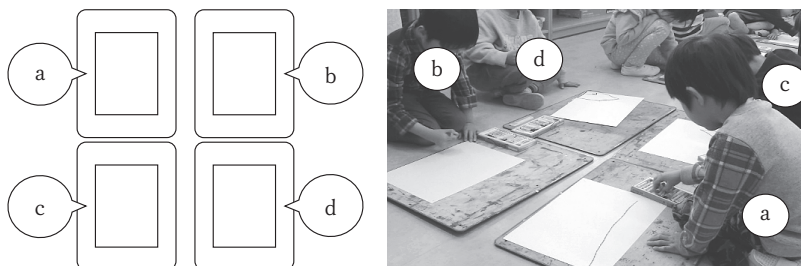


図2. A班の子ども達の様子（描画活動の開始直後）

今回の分析では、図1に示したA班の子ども（男児4名）に注目し、描画活動中の会話を確認した。a児からd児の配置は図2に示したとおりである。次に、子ども達の発話と行動を表1から8に示した。発話について、幼児同士の会話を網掛け、独り言は斜字、大人に対する会話は下線で示した。行動については、括弧で括り表現している。

表1. A班の子ども達の発話と行動①

時間	a児	b児	c児	d児
00:00	〈基底線を描く〉			〈画用紙左端に家を描く〉
00:15			〈画用紙右端に家を描く〉	
00:21	保育者に対して「いいだろう(石 コ太郎)を描く」			
00:27	「森やからな」(独り言)			
00:31		〈画用紙左端に家を描く〉		「霧、霧を描こう」(独り言)
00:47	〈画用紙中央の基底線の上に、 木の幹を描く〉			〈家の上に雲を描く〉
00:57	〈幹に葉を描く〉	〈屋根を赤色に塗り始める〉	〈画用紙の中央を白に塗る〉	〈画用紙右上端に太陽を描く〉
01:13	「下にでかく描く」(独り言)			
01:18		〈dの描画を目視〉	著者らに対して「先生！外、描 いてんねん、今」	
01:26	著者らに対して「森のとこ、描い てる」	dの画用紙を覗き込み、dと話 す		
01:37		著者らに対して「絵本じゃなかつ たから、わからへん」		著者らに対して「絵本じゃなかつ たから、わからへん」
01:44			「あ、鬼が」(独り言)	

表1に示したように、描画開始直後はお互いに会話をするのではなく、a児は基底線⁴を描き、d児は画用紙左端に家を、c児は画用紙右端に家を描き始め、b児はしばらく思案している。開始から1分26秒経過した時点でb児とd児の会話が聞かれたが、保育室内にいる著者らに対して「絵本じゃなかったから、わからへん」という発言からもわかるように、どのように描画すべきなのかを悩んでいる様子がわかる。

表2. A班の子ども達の発話と行動②

時間	a児	b児	c児	d児
02:01			bに対して「あかたろうは、あか 全部やったっけ？」	
02:04		eに対して「ちからたろうやで」	bに対して「ちからたろう、全部 あか違う？」	〈家の屋根を茶色に塗る〉
02:07	bに対して「違うで、最初あかた ろうやで！」			
02:11	bに対して「じいさんがはじめ てんな」	aに対して「最初あかで、途中か らちからたろう」		
02:16			aに対して「ちからたろうってあ か？」	
02:23		〈aの画用紙を覗き込む〉	著者らに対して「先生！ちから たろうって全部あか？」	
02:29	bを見て、手を叩き「あー！×× やから石描こう！」		「だって最初、全部あかやった やん」(独り言)	〈aの画用紙を見る〉

表2では、c児のb児に対する問いかけから始まった会話では、素話の冒頭部分についてよく理解していることが窺える。『ちからたろう』の主人公は、もともと老夫婦の垢から作られた人形であったため、当初は「あかたろう（垢太郎）」と呼ばれていた。しかし、成長し剛力の若者になったことから「ちからたろう（力太郎）」と呼び名が変わった。そのことについて、改めて確認しようと他児と会話を試みるc児の姿が見られる。

表3. A班の子ども達の発話と行動 ③


時間	a児	b児	c児	d児
02:35		「あ、いしたろう」(独り言)		
02:38	基底線の上に○を4つ描き、差 者らに対して「見て！石！」			
02:42		aに対して両手で何かを押す ジェスチャーをしながら「いした ろう、石転がしてるんちゃらん」 		
02:55	「けど、仲間になってん」(独り 言)		「ごろごろごろ」(独り言)	
03:06	〈画用紙左上に顔のようなもの を描く〉	aの画用紙を覗き込み「何、そ れ？」		
03:07	bに対して「いしたろうやで」			
03:10		自分の画用紙中央に円を描き ながら、aに対して「いしたろう、 石転がないやん」		
03:14	画用紙左上のいしたろうの右横 に円を描き、bに対して「ほら見 て、こんなにでかい」			

表3では、a児とb児の描画に対する会話が示されている。ここでも素話の内容をよく理解できていることがわかる。「ちからたろう（力太郎）」は旅の途中で「いしこたろう（石コ太郎）」と出会い、力勝負によって仲間にするのだが、「いしこたろう（石コ太郎）」は登場する際に大きな石を転がしている。会話からb児がそのことを理解していることがわかり、a児は描画において自分なりの「いしこたろう（石コ太郎）」を表現していることを、言葉でb児に伝えようとしている姿が窺える。その間、c児とd児は自身の描画活動に集中しており、会話に参加していない。

表4. A班の子ども達の発話と行動 ④

時間	a児	b児	c児	d児
03:34				画面中央に、赤色で丸く塗りつ ぶしているbに対して「どんなん しでるん、見して」
03:36				bに対して「何、この丸いの ん？」 
03:38	画用紙右中央に円を描いて、b に対して「見て！こんなにでっ かい」	〈自分の作業に集中している〉		
04:00	先ほどの円に目と口を描き、人 のようなものを描きながら、b に対して「見て！力持ちー！」			
04:11	「あ、武器描いておこら、武器」 (独り言)		〈画用紙中央下に赤色で何かを 描き始める〉	
04:25		〈画面を両手で叩き、苦々しい 表情をする〉		〈bの様子を眺めている〉

表4では、d児とa児がb児に向けて会話をはじめようとするが、b児が描画活動に集中していたため発展しなかったことが窺える。この間、c児は自身の描画活動に集中し続けている。

表5. A班の子ども達の発話と行動 ⑤


時間	a児	b児	c児	d児
04:29			「嘘ー！」(独り言)	
04:37	cの画用紙を指さし、「見て、力太郎が鬼になってる」			
04:39		〈笑う〉		〈笑う〉
04:52		cの画用紙を覗き込みながら「鬼、めっちゃ大きく描いたやん」 		
05:01	〈画用紙上部を水色で塗る〉			〈茶色で基底線を描く〉
05:10		〈cの画用紙を覗き込む〉	〈画用紙左上に何かを描く〉	

表5では、それまで描画に集中し続けていたc児の作品について、a児の発話がもとでb児とd児が反応していることがわかる。

表6. A班の子ども達の発話と行動 ⑥

時間	a児	b児	c児	d児
05:34	「そーや！川橋こー！」(独り言)			
05:44		「何か持ってるって言ってなかった？」(独り言)		
05:47	bの独り言に反応して「こんぼう」	aに対して「かなづち？」		
05:55	bに対して「こんぼう！！」	「え？なんか持ってなかった？」(独り言)		bに対して「木も持ってたで」
06:21	「そーや！木にりんご描こう！」(独り言)			
06:39		〈家に何かを描き加えはじめる〉	〈家の屋根を赤色に塗り潰す〉	〈画面中央に木を描く〉
06:43	cの画用紙を見て、bに対して「化け物ー！！」と叫ぶ			

表6でも、素話の内容について確認しているb児の言葉が聞かれている。まず、主人公が何かを持っていたのではないかという点について独り言を発すと、それにa児が反応して意見を述べている。ただ、a児の「こんぼう(棍棒)」という言葉に納得できなかったb児が「かなづち(金槌)」と聞き返している。

実際の内容では、主人公の「ちからたろう(力太郎)」が老夫婦に「百貫目の金棒」を所望している。おそらく「金棒」の想像が難しく、「棍棒」や「金槌」に変化したと思われる。

表7. A班の子ども達の発話と行動 ⑦



時間	a児	b児	c児	d児
06:53		dに対して「家にとーんって」	〈家の壁を青色に塗り潰す〉	bに対して「どうやって？」 
07:12	bに対して画面中央に茶色で線を引きながら「見て、とー、とー、ほら大人よりでかい」と言い、画用紙からはみ出た部分を指さす 	〈aの画面を見る〉		〈aの画面を見る〉
07:34		〈画用紙左端の家の上に何かを描き始める〉	〈画用紙左を橙色に塗り潰す〉	
07:40		〈cの画用紙を覗き込む〉	橙色に塗りつぶしながら「ちからたろう、力が吸い取られているー」(独り言)	
07:49			橙色に塗りつぶしながら「体も吸い取ろうかい？」(独り言)	

表7では、b児とd児の会話にa児が参加する姿が確認できる。c児は集中している描画活動がさらに熟を帯びており、物語場면을想像しながら独り言を発している。

表8. A班の子ども達の発話と行動 ⑧


時間	a児	b児	c児	d児
13:46			「ちからたろうがさ、××食べてたん」(独り言)	
13:49	cの独り言に反応して「おいも食べてたんやって」	〈cの画用紙を覗く〉		
14:00	画用紙を指さしながら、bに対して「見てー、この太郎がさ、ふさいでるねん」	〈aの画用紙を覗き込む〉		
14:11	「こいつがさ、石をさ、ばばばばばばって」(独り言)			
14:18		dに対して、家の描き方について話す 自分の画用紙の家を指さしながら、dに対して話す		(bの意見を聞いている)
14:27				(bの指さす画用紙を見ながら、話を聞いている)
14:33		dに対して「これ」		bに対して「どれ？」
14:59		〈隣の画用紙を覗きに行く〉		
15:09		隣の班の子どもの表現について、画用紙を指さしながら話し合っている		
15:22			〈画用紙中央を灰色で丸く塗り潰す〉	〈隣の班の画用紙を覗く〉
15:54			近くの著者らに対して、自分の描画を説明する	
15:57			近くの著者らに対して、自分の描画を説明する	
16:01				近くの著者らに対して、「見て！すごいんできた」
16:04		近くの著者らに対して、自分の描画を説明する		

表8では、a児・b児・d児が描画について会話し、それぞれの描画について説明をしている姿が確認できる。特にb児は、A班内に留まらず、横の班で描画活動をおこなっていた女兒の所に行き、画用紙を指さしながら何かを会話していた。

c児は描画活動に集中し続け、画用紙を塗り潰す表現に没頭していた。著者らがA班に近づくと、すぐに自らの作品について説明を始めた。それが契機となり、他の幼児も順番を待ちつつ、著者らに対して自身の作品の説明を始めた。

その後もa児・b児・d児が中心となった会話が発生し、20分を超える描画活動に集中している姿が確認できた。それぞれの幼児の会話の特徴として、a児の場合、自身の思ったことや感じたことを大きな声で表現し、同じ班に属するメンバーの注目を引く方法が見られた。一方で、b児の会話の特徴は、素話の理解が正確であり、それを描画で表現するための表現が多いというものであった。さらに、他児の描画表現に興味を持っており、よく他児の画用紙を覗き込む行動を示した。c児は主に独り言を発しながら描画活動に集中した。しかし、決して他の幼児と孤立しているのではなく、発話を通しての関わりを意識しながら描画をおこなっていた。d児は自身の描画に集中しつつも、他者の発話をよく聴いており、特にb児の発話には丁寧に対応していた特徴があった。

それぞれの幼児が異なる会話の特徴を持ちつつも、描画活動全体を通して意思疎通を試みていることが確認できた。

まとめ

本研究の実験を通して、言語表現活動から造形表現活動に繋ぐ保育活動では、造形表現活動において幼児同士の会話が誘発されることがわかった。同時に、幼児の独り言や保育者に対する発話も多くみられることが確認できた。

幼児同士の言葉による伝え合いが発生するためには、幼児の心のなかで他者に伝えたい気持ちが芽生えることが前提となる。また、会話となるためには共通に理解できる事柄が必要ともいえる。我々が提案した保育活動案は、それらの条件を満たしている活動だといえる。まず、素話によってお話を聴くという共通の体験があり、その後、それぞれの考えた場面を描画によって表現することになる。絵本の読み聞かせと異なり、幼児たちに共通のイメージが共有されていないため、絵に表現するにあたって想像力を働かせる必要がある。それまでの生活経験などと結びつけてお話を理解できた幼児は、いちはやく描画に取り掛かる。その姿や描かれたものを見ることで、イメージが難しかった幼児も模倣という形からではあるが、描画に取り掛かることができる。

その際、他者の描画と自身の描画に差異が見られた場合には疑問を持つことになる。また、自身のアイデアを他者に知って欲しいという気持ちも高まる。これらが発話への大きな原動力となると考えられる。

保育・幼児教育の時期に十分な言葉による伝え合いの経験を積むことができれば、就学期以降、さらに豊かな言葉による意思疎通の機会を得ることが容易になるといえる。小学校高学年のクラスでの話し合いなどだけでなく、就学直後の児童であっても、自身の気持ちを言葉によっても表現することができれば、教諭らの児童理解が進むとともに、児童同士の相互理解も深まることが期待できる。

和田⁵は子どもに対する言語教育の在り方について、ハイデッガーの「言葉は存在の家」⁶を引き合いに出し、言葉に対する熟慮を欠いていたのではないかと指摘している。そして、「言葉には世界の把握だけでなく、現実的な世界を形成する力がある」からこそ、言語教育の課題が対話する力の育成にあると鋭く洞察している。本研究で提案した保育活動案が、就学期の児童の対話する力を大きく伸ばすことができる礎として機能するために、より一層の精緻化を進めていきたいと考えている。

今後の研究の方向性としては、素話に用いるお話の種類や、絵本の読み聞かせや紙芝居といった言語表現活動の違い、さらに粘土造形といった造形表現活動の違いによって、子ども達の会話がどのように変化するのかに注目したいと考えている。

加えて、今回の実験では十分に子ども達の会話を記録することができなかった場面もあった。様々な子どもの会話が飛び交うなかで、小さな音量の会話が聞き消されてしまうことがわかった。今後は子ども達の音声の記録方法についても検討を重ねていきたいと考えている。

- 1 藤森裕治「何が求められているの？」(光村図書「サポート資料 なにが変わるの? Vol.1 主体的・対話的で深い学び」)
- 2 「「素話」と造形表現活動を組み合わせた保育活動に関する実証的研究」(平成28～30年度科学研究費補助金、基盤研究(C)、研究代表者高橋一夫)
- 3 『垢太郎』や『こんび太郎』とも題される昔話。老夫婦の垢で作った人形が、本当の男の子となり成長する。そして、旅仲間と共に化け物を退治するという内容。本実験では、今江祥智・文、田島征三・絵『ちからたろう』(ポプラ社、1967)の1993年改訂2刷をもとに素話をおこなった。
- 4 図式期(概ね4歳半～7、8歳頃)の子どもの描画に見られる横線であり、美術教育学者ヴィクター・ローウェンフェルド(Viktor Lowenfeld 1903-1960)が名づけた(松岡宏明『子供の世界 子供の造形』三元社、2017、pp.94-95)。図2のa児の画用紙にはっきりと確認できる。
- 5 和田修二『教育的人間学(改訂版)』放送大学教育振興会、1998、pp.99-101
- 6 M.ハイデッカー著、佐々木一義訳『ヒューマニズムについて』理想社、1974、pp.11-12

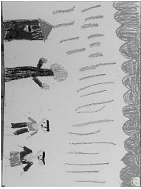





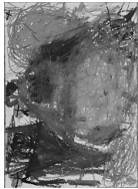
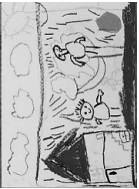

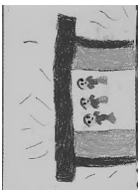



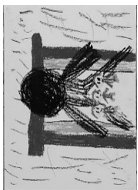









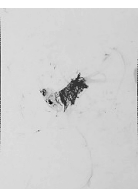

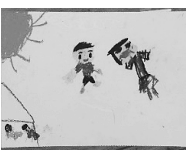
謝辞

本研究の実証実験は、社会福祉法人よしみ会幼保連携型認定こども園東百舌鳥保育園でこない、園長先生をはじめ多くの先生方にご協力を頂きました。心より感謝致します。

参考文献・資料

- 今江祥智・文、田島征三・絵『ちからたろう』ポプラ社、1967
- M.ハイデッカー著、佐々木一義訳『ヒューマニズムについて』理想社、1974
- 和田修二『教育する勇氣』玉川大学出版部、1995
- 和田修二『教育的人間学(改訂版)』放送大学教育振興会、1998
- 松岡宏明『子供の世界 子供の造形』三元社、2017
- 厚生労働省『保育所保育指針』2017
- 文部科学省『幼稚園教育要領』2017
- 内閣府・厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』2017
- 文部科学省『小学校学習指導要領』2017
- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』2017
- 光村図書「サポート資料 なにが変わるの? Vol.1 主体的・対話的で深い学び」
(https://www.mitsumura-tosho.co.jp/2020s_kyokasho/download/ 2019年10月閲覧)
- 報告書「「素話」と造形表現活動を組み合わせた保育活動に関する実証的研究」(平成28～30年度科学研究費補助金、基盤研究(C)、研究代表者高橋一夫) 2019

資料1 子ども達の描画

<p>女児</p> 	<p>女児</p> 	<p>女児</p> 	<p>A班</p> 
<p>女児</p> 	<p>女児</p> 	<p>a児</p> 	<p>b児</p> 
<p>男児</p> 	<p>女児</p> 	<p>女児</p> 	<p>女児</p> 
<p>男児</p> 	<p>女児</p> 	<p>女児</p> 	<p>男児</p> 
<p>女児</p> 	<p>男児</p> 	<p>男児</p> 	<p>男児</p> 
<p>女児</p> 	<p>男児</p> 	<p>男児</p> 	<p>女児</p> 
<p>女児</p> 	<p>女児</p> 		

資料2 A班の子ども達の発話と行動（全て）

時間	a児	b児	c児	d児
00:00	〈基底線を描く〉			〈画用紙左端に家を描く〉
00:15			〈画用紙右端に家を描く〉	
00:21	保育者に対して「いしたろう(石コ太郎)を描く」			
00:27	「森やかな」(独り言)			
00:31		〈画用紙左端に家を描く〉		「雲、雲を描こう」(独り言)
00:47	〈画用紙中央の基底線の上に、木の幹を描く〉			〈家の上に雲を描く〉
00:57	〈幹に葉を描く〉	〈屋根を赤色に塗り始める〉	〈画用紙の中央を白に塗る〉	〈画用紙右上端に太陽を描く〉
01:13	「下にてかく描く」(独り言)			
01:18		〈dの描画を目視〉	著者らに対して「先生！外、描いてんねん、今」	
01:26	著者らに対して「森のとこ、描いてる」	dの画用紙を覗き込み、dと話す		
01:37		著者らに対して「絵本じゃなかったから、わからへん」		著者らに対して「絵本じゃなかったから、わからへん」
01:44			「あ、鬼が」(独り言)	
02:01			bに対して「あかたろうは、あか全部やったっけ？」	
02:04		cに対して「ちからたろうやで」	bに対して「ちからたろう、全部あか違う？」	〈家の屋根を茶色に塗る〉
02:07	bに対して「違うで、最初あかたろうやで！」			
02:11	bに対して「じいさんがではじめてんな」	aに対して「最初あかで、途中でちからたろう」		
02:16			aに対して「ちからたろうってあか？」	
02:23			著者らに対して「先生！ちからたろうって全部あか？」	
02:29	bを見て、手を叩き「あー！××やから石描こう！」	〈aの画用紙を覗き込む〉 	「だって最初、全部あかやったやん」(独り言)	〈aの画用紙を見る〉
02:35		「あ、いしたろう」(独り言)		
02:38	基底線の上にOを4つ描き、著者らに対して「見て！石！」			
02:42		aに対して両手で何かを押すジェスチャーをしながら「いしたろう、石転がしてるんちゃうん」 		
02:55	「けど、仲間になってん」(独り言)		「ごろごろごろ」(独り言)	
03:06	〈画用紙左上に顔のようなものを描く〉	aの画用紙を覗き込み「何、それ？」		
03:07	bに対して「いしたろうやで」			
03:10		自分の画用紙中央に円を描きながら、aに対して「いしたろう、石転がしてないやん」		
03:14	画用紙左上のいしたろうの右横に円を描き、bに対して「ほら見て、こんなにでかい」			

時間	a児	b児	c児	d児
03:16	茶色で塗りつぶしながら、bに対して「木だってでっかい。持ち上げてこんなんしたって」			
03:21		aの画用紙を覗き込みながら、「あ、木を持ち上げてるん？」		
03:25	bに対して「ちがう！石をもちあげてるんです！」と叫ぶ			
03:34				画面中央に、赤色で丸く塗りつぶしているbに対して「どんなんしてるん、見して」
03:36				bに対して「何、この丸いのん？」 
03:38	画用紙右中央に円を描いて、bに対して「見て！こんなにでっかい」	〈自分の作業に集中している〉		
04:00	先ほどの円に目と口を描き、人のようなものを指さしながら、bに対して「見て！力持ちー！」			
04:11	「あ、武器描いておこう、武器」(独り言)		〈画用紙中央下に赤色で何かを描き始める〉	
04:25		〈画面を両手で叩き、苦々しい表情をする〉		〈bの様子を眺めている〉
04:29			「鬼ー！」(独り言)	
04:37	cの画用紙を指さし、「見て、力太郎が鬼になってる」			
04:39		〈笑う〉		〈笑う〉
04:52		cの画用紙を覗き込みながら「鬼、めっちゃ大きく描いたやん」 		
05:01	〈画用紙上部を水色で塗る〉			〈茶色で基底線を描く〉
05:10		〈cの画用紙を覗き込む〉	〈画用紙左上に何かを描く〉	
05:22			「青い××」(独り言)	
05:34	「そーや！川描こう！」(独り言)			
05:44		「何か持ってるって言ってなかった？」(独り言)		
05:47	bの独り言に反応して「こんぼう」	aに対して「かなづち？」		
05:55	bに対して「こんぼう！！」	「え？なんか持ってなかった？」(独り言)		bに対して「木も持ってたで」
06:21	「そーや！木にりんご描こう！！」(独り言)			
06:39		〈家に何かを描き加えはじめる〉	〈家の屋根を赤色に塗り潰す〉	〈画面中央に木を描く〉
06:43	cの画用紙を見て、bに対して「化け物ー！！」と叫ぶ			

時間	a児	b児	c児	d児
06:53		dに対して「家にどーんって」	〈家の壁を青色に塗り潰す〉	bに対して「どうやって？」 
07:12	bに対して画面中央に茶色で線を引きながら「見て、とー、とー、ほら大人よりでかい」と言い、画用紙からはみ出た部分を指さす 	〈aの画面を見る〉		〈aの画面を見る〉
07:34		〈画用紙左端の家の上に何かを描き始める〉	〈画用紙左を橙色に塗り潰す〉	
07:40		〈cの画用紙を覗き込む〉	橙色に塗りつぶしながら「ちからたろう、力が吸い取られているー」(独り言)	
07:49			橙色に塗りつぶしながら「体も吸い取ろうかい？」(独り言)	
07:58	画用紙に灰色で3つの丸を描き、dに対して「見て、雷」			
08:02		〈dのaに対する会話を聞いて、aの画用紙を覗く〉		aに対して「めっちゃ描いてるなー」
08:17	cの様子を見ながら、bに対して「見て、次やばいことになるから」		何かを話しながら(独り言)、集中して塗りつぶす	
08:24	「雷、雷、これに当たったら死ぬ」(独り言)と言いながら稲妻を描く	〈aの画用紙を覗く〉		
08:30	「ピー！！」(独り言)と言いながら稲妻を黄色で塗りつぶす			
08:49	〈稲妻を描くことに集中する〉	〈dの画用紙を覗き込む〉	〈橙色に塗りつぶすことに集中する〉	〈画用紙中央に何かを描く〉
08:52	「ちからたろうがバリアを使った！」(独り言)と言いながら、縦に線を引く			
09:04		dに対して何かを話す		〈画用紙中央に人のようなものを描く〉
09:11	白色のパスを持って「これ、雪ー！」(独り言)	〈青色で縦に線をいくつも描く〉		〈bの画用紙を覗く〉
09:29	稲妻の上を丸く描きながら「びゅー、びゅー、竜巻！」(独り言)			
09:42	「紫、描こう！」(独り言)		〈画用紙右上を緑に塗り潰す〉	
10:11	近くに来た保育者に「見て！化け物！」 			
10:23	保育者に対して画用紙の絵を説明する			

時間	a児	b児	c児	d児
10:25		〈画板の反りを両手で押さえる 仕草を繰り返す〉		
10:37	〈保育者の方を見ながら画用紙 左下を紫色で塗り潰す〉			
10:47	bに対して「ミューツの攻撃に は××光線があるねん」			
10:53			aに対して「ミューツの攻撃っ てサイコブレイクやろ？」	
10:58	「びびびびー」(独り言)	〈自分の描画に集中する〉	「サイコブレイクっしょ」(独り言)	〈自分の描画に集中する〉
11:18	背後の保育者に「見てー！」と 言いながら席を離れる			
11:38	「ふー」(独り言)と言いながら、 画用紙右下を橙色で丸く塗りつ ぶし始める			
11:41		〈灰色で画用紙中央に雲のよう な表現を描く〉		
11:50	bに対して画用紙を指さしなが ら「見て！力持ち太郎が焼けて る」	〈aの話しかけには反応せず、描 画に集中〉	〈描画に集中〉	〈描画に集中〉
12:16		aの画用紙を覗き込みながら 「何、それ？」 		
12:33	bに対して「見て！これな、ピン クのハートやで」			
12:37		「ハートじゃなくて、××やで」 (独り言)		
12:43	bに対して「見て！チューリップ の顔になったで！」			
12:47			「あー、今、怪物倒してんで！」 (独り言)	
13:08		dに対して自分の画用紙を指さ しながら、御堂コ太郎について 話す		bの話を聞き、会話する
13:26	画用紙右端を黄土色で塗りつ ぶしながら「ゴロゴロゴロ、ピッ カーン」(独り言)			
13:46			「ちからたろうがさ、××食べて たん」(独り言)	
13:49	cの独り言に反応して「おいも食 べてたんやって」	〈cの画用紙を覗く〉		
14:00	画用紙を指さしながら、bに対 して「見てー、この太郎がさ、ふさ いでるねん」	〈aの画用紙を覗き込む〉		
14:11	「こいつがさ、石をさ、ばばばば ばばって」(独り言)			
14:18		dに対して、家の描き方につい て話す 自分の画用紙の家を指さしな がら、dに対して話す		〈bの意見を聞いている〉
14:27				〈bの指さす画用紙を見ながら、 話を聞いている〉
14:33		dに対して「これ」		bに対して「どれ？」

時間	a児	b児	c児	d児
14:59		〈隣班の画用紙を覗きに行く〉		
15:09		隣の班の子どもの表現について、画用紙を指さしながら話し合っている		
15:22			〈画用紙中央を灰色で丸く塗り潰す〉	〈隣の班の画用紙を覗く〉
15:54			近くの著者らに対して、自分の描画を説明する	
15:57	近くの著者らに対して、自分の描画を説明する			
16:01				近くの著者らに対して、「見て！すごいんできた」
16:04		近くの著者らに対して、自分の描画を説明する		
16:10	bの画用紙を指さしながら「なんでお米つぶ描いてん？」 			
16:13		「ちがうねー」(独り言)		
16:49	近くの著者らに対して、「おにぎり描いてるー」			
17:07				自分の画用紙を指さしながら、bに対して「これは何でしょうか？」
17:08				bに対して「これ何と思う？」
17:12	dの呼びかけに対して「えーつと」	〈dの呼びかけに対して考える〉		
17:39	「属っていうのは竜巻やから」(独り言)			
17:50			「ケツの穴から出て行った」(独り言)	
17:57				bに対して「ここに何を描こうかな」
18:05		dの画用紙を指さし、aに対して「これ携帯電話やって」		
18:09				近くの著者らに対して「携帯電話描いた」
18:13	著者らに対して「昔に電話あった？」			
18:18		著者らに対して「電話あったで、昔は」		
18:36		〈隣班の画用紙を覗きに行く〉		
19:03	保育者に対して「見てー、風でびゅーびゅー吹いてる」		〈塗り潰すことに集中〉	
19:12	保育者に対して「見てー、化け物が攻撃してる」	〈cの画用紙を覗き込む〉		
19:31		保育者の質問に対して何を描いたか答える 		
20:42				bに対して「こいつ、チビなったら弱い」
21:09				〈画面中央に横線を引く〉

時間	a児	b児	c児	d児
21:23			〈画面中央を水色で塗り潰す〉	
21:41	〈パスのケースを眺める〉			
22:07		〈著者らの指示を聞いて、パスのケースを片付け始める〉		
22:16	「じゃあ、僕はあと…。ろうそく描こう、ろうそく!!」(独り言)と言いながら、描き加える			
22:38		〈隣の班に行く〉		〈画面中央に描き加える〉
22:49			〈パスを片付けて、絵を提出しようとする〉	
23:02	〈パスのケースを眺める〉	〈立ち上がる〉		
23:23		〈隣の班の作品を覗き込む〉		
23:51				〈描き続ける〉
24:22		〈dのパスを取り上げて片付ける〉		著者らの終了の指示で、bがパスを取り上げる「終わった!セーフ!!」(独り言)
24:41		〈片付ける時にパスがこぼれる〉		bに対して「(箱に示されているのと)おんなじようにやって」
24:45	描画終了			